



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2024年
No.10
事例3

疑義照会・処方医への情報提供

インクレチン関連薬の重複



事例

【事例の詳細】

エクメット配合錠HDを服用している糖尿病の患者に、マンジャロ皮下注2.5mgアテオスが新たに処方された。マンジャロ皮下注2.5mgアテオスの添付文書の重要な基本的注意には、「本剤とDPP-4阻害剤はいずれもGLP-1受容体及びGIP受容体を介した血糖降下作用を有している。両剤を併用した際の臨床試験成績はなく、有効性及び安全性は確認されていない。」と記載されている。エクメット配合錠HDはDPP-4阻害薬であるビルダグリブチンを含有する薬剤であるため、処方医に疑義照会を行った結果、エクメット配合錠HDはメトグルコ錠500mgに変更となった。

【推定される要因】

処方医が、エクメット配合錠HDに、DPP-4阻害薬であるビルダグリブチンが含まれていることを失念した可能性がある。

【薬局での取り組み】

マンジャロ皮下注アテオスが処方された際は、DPP-4阻害薬が処方されていないか確認する。マンジャロ皮下注アテオスの薬剤棚にDPP-4阻害薬との重複に注意を促す表示を行う。



その他の情報

マンジャロ皮下注2.5mgアテオス/5mgアテオス/7.5mgアテオス/10mgアテオス/12.5mgアテオス/15mgアテオスの医薬品インタビューフォーム 2024年8月改訂（第6版）（一部抜粋）

VIII.安全性（使用上の注意等）に関する項目

5.重要な基本的注意とその理由

（解説）

8.15 本剤とDPP-4阻害剤はいずれもGLP-1受容体及びGIP受容体を介した血糖降下作用を有しているが、両剤を併用した臨床試験は実施されておらず、有効性及び安全性が確認されていないため、DPP-4阻害剤とは併用しないこと。



事例のポイント

- マンジャロ皮下注アテオスは2023年4月に販売が開始された、世界初の持続性GIP/GLP-1受容体作動薬である。
- マンジャロ皮下注アテオスが処方された際は、GLP-1受容体やGIP受容体を介した血糖降下作用を有するインクレチン関連薬との重複に注意する必要がある。作用機序が同じである他のGLP-1受容体作動薬だけでなく、DPP-4阻害薬との重複についても確認することが重要である。
- 本事業の第31回報告書（2024年9月公表）の分析テーマでは、「新規収載医薬品^{*}に関する事例」として、マンジャロ皮下注アテオスに関する事例を取り上げた。調剤に関するヒヤリ・ハット事例や、疑義照会や処方医への情報提供に関する事例を分析し、報告された内容を整理して掲載している。

新規収載医薬品に関する事例ーマンジャロ皮下注アテオス、グラアルファ配合点眼液ー

^{*}本事業における「新規収載医薬品」とは、報告された事例の発生月において薬価収載1年未満の新医薬品（医療用医薬品）である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqhcc.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。